

研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 秋山博子

令和 3 年 12 月 27 日、下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	ウォーカブルシティ形成の計画と実践(メディア参加)
研修の目的	道路空間に関してウォーカブルなまちづくりを国が打ち出したことを受け、計画づくりや実践事例に学んで当市での政策議論に生かしたい（主催／地域科学研究会、講師／埼玉大学・久保田尚氏、千葉大学・秋田典子氏、横浜国立大学・野原卓氏、栃木県小山市都市整備部技監・浅見知秀氏、さいたま市都市局都心整備部・佐藤久弥氏）
所 感	<p>2020 年 2021 年、国の道路政策に大きな動きがあった。多様なニーズに応える道路空間のあり方に関する検討会をはじめとして複数の検討会・懇談会が立ち上げられ、関連するガイドラインも策定された。キーワードには、人中心の街路空間、緑とウォーカブル、ストリートデザイン、バスのある暮らしをリデザイン、道路空間のユニバーサルデザインなど、ワクワクするフレーズが続く。まちづくりの動脈となる道路の可能性を感じさせてくれる。道路とは何か、公共空間とは何か、ストリートとは何か、それは市民のものであり、市民の財産である。この道は、ワタシのものであり、みんなのものでもある、という意識は、とても大事。だから守りたいし、だから楽しみたいし、だから気持ちよく使えるルールをみんなで考えたいし、と繋がっていく。市民参加や市民参画はその意識がベースになれば実現しない。本セミナーでは、海外のウォーカブルシティの事例や、小山市・さいたま市の取り組み、さらに姫路市・松山市・横浜市の事例を紹介していただいた。当市でも、これまでもいくつかのまちづくりグループや団体などが、道路の活用についてプレゼンテーションしてきた。アイデアを出させてお疲れ様、ではない、カタチにつながる市民参加の仕組みで、ウォーカブルなまちづくりが展開できたらと思う。</p>
今後の参考となる事項	<p>(1) さいたま市では大宮らしさを生かしたプロジェクト「マチミチコンペ」(大宮ウォーカブルシティ)を開催。モデルプロジェクト部門では中長期的(10~20年)に実現を目指すプロジェクトで自由な発想でのアイデアを、プレイヤー部門では短期的(1~3年)で着手できる実践型のアイデアを募集した。焼津らしいウォーカブルなまちづくりにこうした手法をぜひ取り入れたい。</p> <p>(2) 道路空間のユニバーサルデザインの研究</p>

* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

* 参考資料等がある場合は、添付してください。